

◎自由発表（第4会場）【座長・司会】若田 透（関西地区研究会常任幹事）

【演 題 等】夜間定時制高校における生活指導の課題と実践

～外国ルーツの生徒への支援の取組～

【講演・発表者】大阪府立桜塚高等学校 定時制の課程教頭 根岩 直希

・発表概要

- 1 定時制に通う生徒たちの変化について
 - ・大阪府高等学校定時制通信制教育研究会生活指導研究会の活動記録の分析を通して
- 2 外国にルーツを持つ生徒たちへの支援について



・発表要旨

高等学校定時制において、授業は夜間 18 時から 21 時半までに 4 コマの授業を実施している。加えて、希望者のみを対象として 0 時間目の授業を実施する学校もある。

この 10 年で定時制における生徒の状況が大きく変化している。以前は多数在籍していた勤労学生が現在ではほぼおらず、変わって外国にルーツのある生徒が年々増加している。また、本校においては喫煙や暴力行為などの懲戒事案についても過去 3 年間に於いて減少傾向である。外国にルーツのある生徒への取組として、理解することが難しいと思われるいくつかの教科については、入り込みによるサポートを実施している。定期考査については、時間延長の申請を受け付けている。また、授業プリントについては、翻訳タブレットでの自動翻訳やポケトーク for school を活用しながら、日々の教育活動を展開している。ポケトーク for school については、日本語を英語同時翻訳するが、母語しかわからない生徒が苦慮する現状もある。

支援の取組に対する生徒への調査結果として、入り込みや 0 時間目授業については半数の生徒が「良い」と感じているものの、タブレットによる翻訳がタイムラグがどうしても発生することもあり、少し使いづらいと感じていることが分かった。

学国にルーツのある生徒に対し、どこまで支援することが効果的であるか、検討を進めながら、ICT を活用した支援に引き続き努めていきたい。

・質疑応答の概要

- Q 生徒が日本語をうまくしゃべることができず、感情を伝えられない場合も多くあることが予測される中、どのような支援を行っているか。
- A 日本語の習得のために基礎学力の定着を図るとともに、卒業生が有償ボランティアとしてサポートしてくれており、在校生に対して経験をもとにアドバイスしてくれている。

・記録者雑感

高等学校定時制だけでなく、一般の小中学校においても喫煙の課題に対し、実際の取組や検証も交えながら発表いただいた。今後における学校の状況変化を予測しながら、その支援の在り方を会場全体で共有できた。